

バスを使って、いつまでも元気に過ごせるまちにするための座談会

開催日：2016・8・6（土）13:00～15:15 つつじが丘ふれあいセンタ

地域参加者： 40名

行政・大学等参加者： 1名

各務原市商工振興課 前田直宏 和田雅仁 安田佳祐

中部学院大学准教授 新井 康友

市社会福祉協議会 土屋 直樹

岐阜バス 2人

冒頭挨拶：八木山地区社会福祉協議会 会長 海野修治

終了挨拶：八木山自治会連合会 会長 尾崎利治

座談会の進め方説明：清水事務局員

Aグループ（テーマ：路線バスに関する提案 メンバー：?名）

存続するために地域全体の問題として自治会で考えていく。

バスカードアユカの利用促進

時刻表を各戸配布

シルバー割引できないか

バスの利便性を周知する＝ライフスタイルを変える

～（株）岐阜バスコミュニティより～

赤字路線は廃止したいばかりだが、そうは言っておられないので、運行する。
ただバス業界は、バス転落事故を受けて、規則が厳しくなり、かつ乗務員不足で思うようにいかない部分がある。

Bグループ（テーマ：ふれあいバスに関して市へ提案する事 メンバー：?名）

とにかく存続してほしい

鵜沼宿でもう少し電車の時刻に合わせてほしい

東海中央病院から帰りのバスを、10時台から13時台の間にもう1本ほしい

アピタから1時台で帰るには、行きが11時では遅いので10時台にしてほしい

アピタ・東海中央病院方面へ土日祝にも行けるように

（市）努力するが、バスはあっても乗務員が足りない

東海中央病院へ直行する便もほしい

（市）岐阜バスコミュニティに依頼しているところだ

パターンダイヤ（例 1：05 2：05 3：05・・・）だと覚えやすく助かる

(市) そうしたいが、乗務員の休憩時間が必要なのでできない。バスの停留所が設置された業者から広告代をいただいて、増便を。またはバス停の日よけを設置する。

(市) 外国人観光客の増大等により、バス製造会社は、大型バスを生産に力を入れているため、小さなバスは今注文しても2年半待ちの状態。今すぐなんとかはできない。

鶺沼地域を東西に分けて、小地域で運行することで、我がまちのコミュニティバスとすることで、みんなが愛着をもってふれあいバスを盛り立てていくようにする。

存続のために自分たちで努力すること

子どもの移動手段として利用することがあっていい。

バスの利用の仕方を知れば便利さが分かるので、まず乗ってみる。

乗りやすいように時刻表などで案内をする。

Cグループ

テーマ：地域独自の移動手段について考える

メンバー：12名(石原 井上 江川 江川 片石 金尾 金子 河原 西尾 松井 三島 和田)

※メンバーには市商工振興課の和田さんや事業者の三島さんも参加。オブザーバーに市社協の土屋さんも参加しました。

※有償運送の際に法人格取得が必要か否かや申請方法や運用方法等について専門的なアドバイスもありました。

※メンバーには運転者としてボランティア参加希望者もいましたが利用者の視点で完全無償サービスはボランティア参加の方に気を使うので有償サービスにしてもらいたいとの意見多数。

※マイクロバス等を確保するために行政からの助成金を受ける検討を開始している地域があるとの情報もありました。

発表内容：路線バス・ふれあいバスは広域交通手段なので、八木山地域に最も都合のいいサービスには限界があるので独自の補完サービスが今後必要になるという議論を前提に以下の提案を発表。

- 1 有償運送の許可申請をして、マイクロバスないしは、生活支援ボランティア活動の車を使って、通院、買い物に活用する。
- 2 既存の輸送サービスの紹介をする。
- 3 検討委員会を設けて上記の車両導入を考える。

※ 参加者全員が、ぜひとも実現しようという意見であった。